

北見市における景気動向調査報告書

< 第 III 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成30年 1月12日

(2) 調査対象期間 平成29年10月～12月期実績および平成30年1月～3月期見通しについて調査した。

2. 調 査 対 象

北見市に所在する製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を対象に、往復ハガキにより調査した。

3. 回 収 状 況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30社	20社	66.6%
建 設 業	30社	21社	70.0%
卸 売 業	30社	25社	83.3%
小 売 業	35社	22社	62.8%
サービス業	25社	17社	68.0%
合 計	150社	105社	70.0%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成29年度第Ⅲ四半期<10月～12月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」20.0、「悪化企業」34.3、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△14.3となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期比△7.4→今回△14.3と△6.9ポイントの悪化となっています。また、前期<第Ⅱ四半期>との比較では、前期△8.5→今回△14.3と7.8ポイントの悪化となりました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△30.0、建設業D・I値14.4、卸売業D・I値△20.0、小売業D・I値△13.7、サービス業D・I値△23.5となっており、前年同期調査と比較すると、建設業が23.5ポイント好転している一方、その他の業種すべてが悪化となり、特に製造業が52.8ポイントの大幅な悪化を示しています。

なお、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」13.3%「悪化企業」34.3%でD・I値△21.0と、前年同期(△16.8)に比べ4.2ポイント悪化となり、依然厳しさが伺える来期見通しとなっております。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」15.0%、「減少企業」40.0%、D・I値△25.0と前年同期に比べ29.0ポイントの大幅な悪化傾向を示し、プラスからマイナスに転じる結果となりました。

採 算

前年比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」45.0%、D・I値△25.0と前年同期に比べ5.0ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況D・I値0、生産高D・I値△5.0、資金繰りD・I値0と全てで好転傾向を示し、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなっています。

2) 建設業

完成工事高

前年比で「増加企業」47.6%、「減少企業」28.6%、D・I値19.0と前年同期に比べ28.6ポイントの好転傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」28.6%、「悪化企業」14.3%、D・I値14.3と前年同期に比べ4.8ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△33.4、完成工事高D・I値△28.6、資金繰りD・I値△14.3と前年同期に比べ業況のみ悪化を示し、依然厳しさが見える来期見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」28.0%「減少企業」60.0%、D・I値△32.0と前年同期に比べ12.0ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」36.0%、D・I値△16.0と前年同期に比べ1.0ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△28.0、売上高D・I値△20.0、資金繰りD・I値△24.0と前年同期に比べ全て大幅な悪化傾向を示し、厳しさが見える来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」18.2%「減少企業」27.3%、D・I値△9.1と前年同期と比べて2.9ポイントと若干の好転傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」31.8%「悪化企業」27.3%、D・I値4.5と前年同期と比べ3.5ポイントの悪化傾向を示し、厳しい結果となりました。

来期見通し

業況D・I値△27.3、売上高D・I値△18.2、資金繰りD・I値△13.6と、前年同期と比べ、全て大幅な悪化傾向を示し、厳しい来期見通しとなっています。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」17.6%、「減少企業」35.3%、D・I値△17.7と前年同期と比べ1.0ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

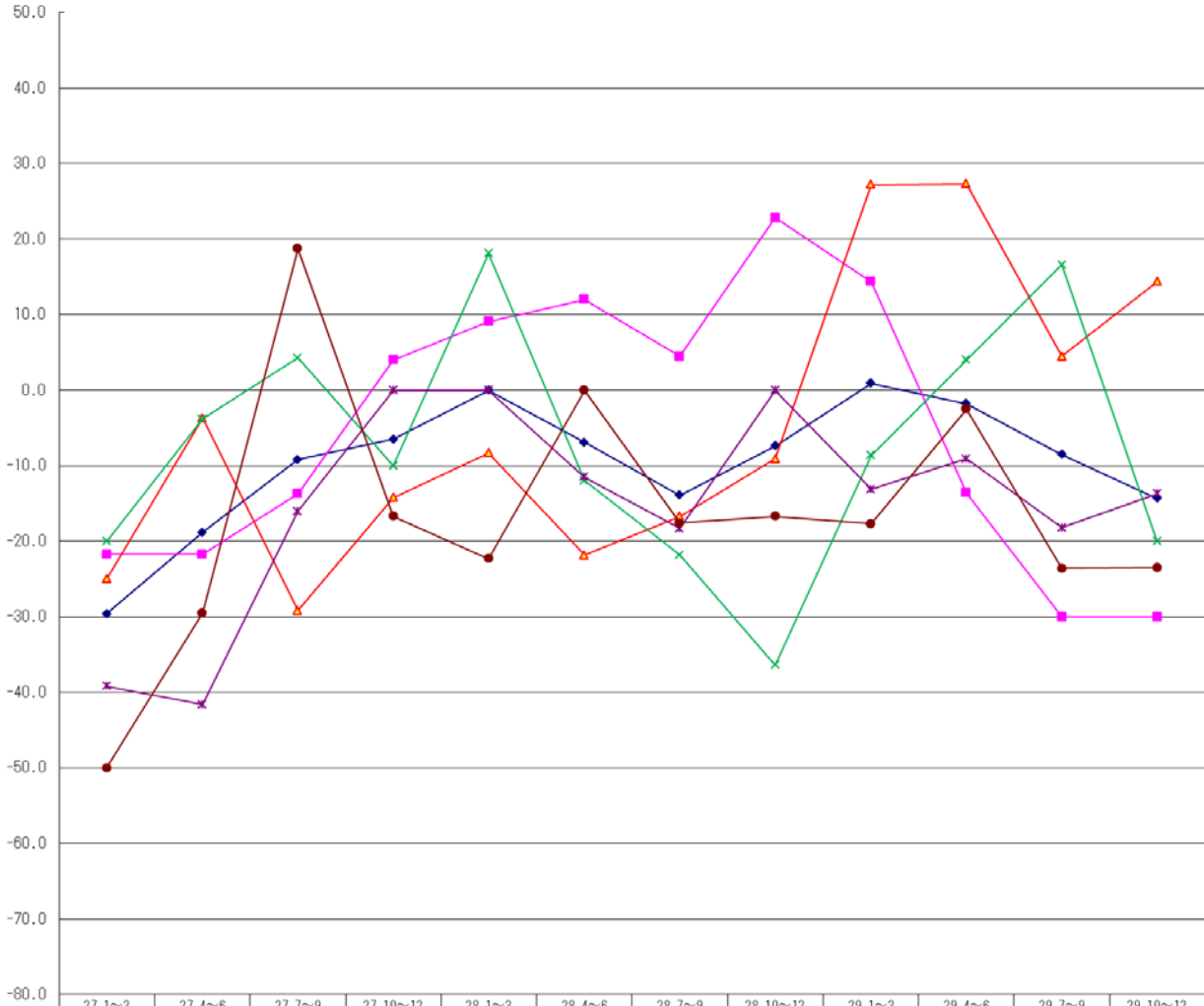
前年比で「好転企業」17.6%、「悪化企業」41.2%、D・I値△23.6と前年同期に比べ7.6ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△35.3、売上高D・I値△35.3、資金繰りD・I値△29.4と前年同期と比べ、わずかながら全て好転傾向を示しましたが、依然厳しさが伺える来期見通しとなっています。

業況（前年同期比）

◆ 全業種
 ■ 製造業
 ▲ 建設業
 ✕ 卸売業
 ✕ 小売業
 ● サービス業



	27.1~3 26年度Ⅳ	27.4~6 27年度Ⅰ	27.7~9 27年度Ⅱ	27.10~12 27年度Ⅲ	28.1~3 27年度Ⅳ	28.4~6 28年度Ⅰ	28.7~9 28年度Ⅱ	28.10~12 28年度Ⅲ	29.1~3 28年度Ⅳ	29.4~6 29年度Ⅰ	29.7~9 29年度Ⅱ	29.10~12 29年度Ⅲ
◆ 全業種	-29.6	-18.8	-9.2	-6.5	0.0	-6.9	-13.9	-7.4	0.9	-1.9	-8.5	-14.3
■ 製造業	-21.7	-21.7	-13.7	4.0	9.1	12.0	4.5	22.8	14.4	-13.6	-30.0	-30.0
▲ 建設業	-25.0	-3.7	-29.2	-14.2	-8.3	-21.8	-16.7	-9.1	27.2	27.3	4.5	14.4
✕ 卸売業	-20.0	-3.8	4.3	-10.0	18.1	-12.0	-21.8	-36.4	-8.6	4.0	16.6	-20.0
✕ 小売業	-39.2	-41.6	-16.0	0.0	0.0	-11.5	-18.3	0.0	-13.1	-9.1	-18.2	-13.7
● サービス業	-50.0	-29.5	18.7	-16.7	-22.3	0.0	-17.6	-16.7	-17.7	-2.5	-23.8	-23.5

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	同 業 者 間 の 競 合	人 件 費 増	得 意 先 減 少
卸 売 業	人 材 不 足	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	人 材 不 足	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増
サ ー ビ ス 業	諸 経 費 増	人 件 費 増	同 業 者 間 の 競 合	人 材 不 足	得 意 先 減 少
合 計	人 材 不 足	諸 経 費 増	同 業 者 間 の 競 合	人 件 費 増	得 意 先 減 少

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○前年同期比

全業種で見ると、前年同期調査2位だった「人材不足」が1位となった。前年同期調査で3位の「諸経費増」が2位になり、1位だった「同業者間の競合」が3位という結果となりました。

また、業種別で見ると、製造業・建設業・サービス業のトップは前年同期と一緒となっている。卸売業は前年2位の「人材不足」がトップとなり、小売業では前年4位の「人材不足」が大幅に順位を上げ、1位という結果になった。5業種中、3業種で「人材不足」という問題点が1位になるという結果になった。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

- (建設)
 - 従業員の高齢化（土木）
 - オホーツク管内は人口減少もあり、先行きは厳しい（金属製屋根工事）
- (卸売)
 - 北朝鮮への制裁により工員不足となり、納期遅延となっている（身の回り品）
 - 得意先業者の高齢化（塗料）
 - 競合の激化（医療用品）
 - 人材確保と育成（種苗・肥料）

業況

※太字アンダーラインは複数企業が回答

- 製造業 ⇒ 好転（食品製造、金属製品、一般機械）
悪化（製材、印刷、農産物加工、製麺、石灰、石工）
- 建設業 ⇒ 好転（一般土木、管工事）
悪化（給排水設備、冷暖房、塗装）
- 卸売業 ⇒ 好転（鉄鋼、一般製材、作業服、塗料、自動車部品）
悪化（建築資材、石油製品、野菜、米、製パン、家電、化粧品、医療用品）
- 小売業 ⇒ 好転（眼鏡、介護用品）
悪化（酒、自動車、時計、米穀類）
- サービス業 ⇒ 好転（喫茶）
悪化（ホテル【宿泊】、建物清掃）